

# Rotary



## Yachiyo



Imagine  
ロータリー

2022-23年度国際ロータリーテーマ

「イマジン ロータリー」

2022-23年度クラブテーマ

「ロータリーを学び、語り、

奉仕を実践していこう。“Think”」

## 週報 第2690回

2023年3月3日

八千代ロータリークラブ CLUB NO.15070

今回例会行事

担当：クラブ広報委員会

テーマ：泌尿器科って何を診る科なの？

卓話者：花島文成会員

次回例会 3月10日

テーマ：地域と医療と福祉の連携

大和田地域包括について

担当：雑誌委員会

卓話者：安達直弘様

◆◆◆◆第2689例会◆◆◆◆

司会 中島貞好

「奉仕の理想」

会長挨拶

会長 杉 晟

皆さん、こんにちは。

今月は、「平和構築と紛争予防月間」です。このことについての話をします。

ロシアがウクライナに侵攻して今日24日で1年になります。この間、ウクライナにおいては多くの人道的被害や各種の重要インフラの被害が発生しています。この戦争は中々終わりそうもありませんし、ある種の分断が進んでいる様に思われます。国際機関でなんとかならないものでしょうか？

先ずは、ガバナー月信VOL8に掲載の小倉ガバナーのお話をします。昨年2月から始まったロシアによるウクライナ侵攻、そしてその後の戦争の被害状況は、目を覆いたくなる惨状です。一日も早い戦争の終結を願うばかりです。私たちロータリアンは、ウクライナの支援のため、寄付や募金活動を行い、さらには地区として簡易宿泊施設の寄贈を行いました。しかし、テレビに映し出される惨状を見つめながら、それ以上何もできないもどかしさを強く感じています。本年度RIのテーマ「IMAGINE ROTARY」は、

ビートルズのIMAGINEという曲からインスピレーションを受けたと、ジェニファーE.ジョーンズ会長はおしゃっています。

現在、「戦争のない世界」を想像することは難しいところですが、ロータリーの究極の目的は、国際理解と世界平和の実現です。そのために、私たちロータリアンはこれまで平和フェローの育成、青少年交換、財団奨学生の派遣、米山記念奨学生の支援、さらには世界中のポリオ根絶の活動によって国際理解と世界平和に向けた様々な活動を続けています。私はこれらの地道な青少年への奉仕活動や世界平和へ向けての様々な活動によって、いざれ真の国際理解と世界平和が実現されることをイマジン(想像)しています。

私達はロータリーの例会での話し合い、切磋琢磨を通じて「良き友人」を得ることができます、「奉仕に理念」すなわち人に対する思いやりと他人のために尽くすことを理解することによって「自分の周りにいる人すべてが大切な人」ということを会得できます。この「奉仕に理念」をロータリアンばかりでなく世界中の人々に広めることができれば戦争など起こることはあり得ないでしょう。そのためにも、ジョン・レノンの「IMAGINE」の歌詞を思い起こし、戦争のない平和な世界をイマジン(想像)することです。と小倉ガバナーは述べておられます。

この様な戦争の中でも、世界情勢を良くしようという事で、大きな国際会議が開かれております。そのひとつの世界経済フォーラム年次総会（通称ダボス会議）が1月16日から20日までスイス東部のダボスで開催されました。この世界経済フォーラムは、経済、政治、学究、その他の社会におけるリーダーたちが連携することにより、世界、地域、産業の課題から世界情勢の改善に取り組むことを目的とした国際機関です。各国首脳が大勢集まりいろいろなセッションに参加しています。一週間にわたってロシアのウクライナ侵攻などで分断が深まる世界の課題についても議論されています。日本からは日銀総裁黒田東彦氏、西村経済産業大臣、河野デジタル大臣、後藤経済再生担当大臣が各セッションに参加しました。会議のテーマは「分断された世界における協力の姿」です。分断されたといい切っています。記録的なインフレや紛争などの危機が深まる中、各国の首脳陣や企業幹部らがどのような処方箋を示せるか注目されています。

世界経済フォーラム総裁のボルグ・ブレンデさんは1月20日閉会の辞で、今回の年次総会では特に食糧、エネルギー、気候という最も緊急な危機への取り組みで進展が見られたとし、「今日、世界はより分断されているが、明日もそうである必要はないというのが、私がこの一週間で得た最大の教訓だ」と述べています。非常に抽象的ですが、含蓄のある言葉であると思います。

もう一つは、国連総会は23日、ロシアのウクライナ侵攻開始から丸1年となるのに合わせて開催された緊急特別会合で、ロシア撤退やウクライナ平和決議は圧倒的多数で採択されました。141カ国が賛成し、ロシアを含む7カ国が反対、中国やインドなど32カ国が棄権しました。2/3以上の賛成で決議が採択されましたが、一方で、反対や棄権などに回りロシアへの配慮を示した国もおよそ50か国にのぼり、国際社会の分断も改めて浮き彫りにされました。分断は、アメリカ国内でも、政治的な分断が生じており、同じ社会に住んでいても起こる事です。日本で分断は起らないと考えている方もいらっしゃいますが、すでに起こっています。貧困世帯は年々増加しており、経済的格差が広がってきています。ITリテラシーの差による分断も生じています。しかし、世界に対する平和への願いに対して、政

治へのコミットメントは我々ロータリーとして控えなければならない。できる事があるとすれば、それに関わる事が出来る人材を育成する事で、先ほど小倉会長が述べられた様に、平和フェローシップで国際的な連携のきずなが出来ているという事も一つです。

また国と国の架け橋など、「架け橋」という言葉を使って、世界平和を実現しようとしている基金もあります。米山記念奨学会です。世界と日本の架け橋になろうとし、米山記念奨学会がありますが、わたしは疑問に感じております。本当の架け橋になって、民間外交として活動するにしても米山奨学生の人数が多すぎることはないと思います。半数にして不都合が生じることはないと思います。残りの半数を日本の若者がアメリカに留学してもらい、米山梅吉翁のようなグローバルな活動が出来る人材になってもらうことです。そして、少子高齢化・生産人口減少に対して生産性向上を喫緊の課題として当たってもらいたい。

その為には米山記念奨学会に日本の学生も対象となる事を願ってやみません。

## 幹事報告

幹事 中村賢治

- お手元に3月の例会予定を配布しました。変更等ございますのでご確認下さい
- 5/18～19は親睦旅行の予定です。池田親睦委員長と協議し、一旦参加希望を伺い、希望者が少ない場合は違った形での開催とする予定です。
- 地区からトルコ・シリア地震被災地への災害救援基金への寄付依頼が来ましたので、たくはつを行います。

## 委員会報告

ロータリー財団 カウンセラー 君塚欣哉

アメリカのミシガン大学に派遣している松井智世さんから定期報告が届きましたのでご紹介します。

11/23にサンクスギビングデー（収穫に感謝する日）がありました。アメリカで七面鳥といえばサンクス ギビングデーのディナーです。11/23は日本でも祝日でしたよね。勤労感謝の日です。この2つの祝日、実は深いつながりがあります。もともと11/23は新嘗祭という神道の祝日でした。第二次世界大戦後にGHQにより国家

神道色が強い新嘗祭という名前は Labor Thanks Giving Day(勤労感謝の日)に変更されたのでした。

冬学期に受けている興味深い授業を2つご紹介します。1つ目が Comprehensive Healthcare Strategy という授業です。アメリカの病院経営がどのように成り立っているか を学びます。アメリカの医療費用は日本と比べて大変高いです。そうなってしまう背景には Medicare と呼ばれる公的保険の予算がタイトであること、高齢者が増加していること、そして保管会社と病院のパワーバランスといった複雑な構造が影響しています。患者さん中心の治療が出来ない構造となっており、日本の医療制度の有難さを改めて感じました。2つ目の授業はオペレーションの授業です。特定の企業のオペレーションを学ぶことはアメリカのビジネススクールでもほとんど無いのですが、TOYOTA は例外です。TOYOTA が行っている改善・KAIZEN は米国でも教科書に出てくる単語として定着しています。Muda(無駄)を減らし、Kaizen を行う。このリーン生産方式と呼ばれるオペレーションは、学術的に研究され、全世界で学ばれています。

ミシガンは本日も大雪。日本も例年以上の積雪量と聞いております。

皆様ご自愛くださいませ。

#### プロジェクトY委員会

中村賢治

2/28・3/1 に西高津小学校でユメセンを開催します。ご参加の会員は 10:30 の開始に間に合う様にご参考集下さい。

#### 親睦活動委員会 委員長 池田 建

親睦旅行は5/18～19 に開催予定です。出欠表を回覧しますのでご記入下さい。

#### お祝い

結婚記念日：渡邊敏美会員



## 例会行事

担当：研修会 中村賢治

本日は研修リーダー飯生会員から、パストガバナーの鈴木憲輔氏の卓話「社会的責任の中心としての職業奉仕」に沿って、お話を頂きます。

テーマ：クラブ協議会

卓話者：飯生高一郎会員



皆さんこんにちは、研修リーダーの飯生です。今日は、本年度4回目の卓話となります。

過去3回はロータリーにおいて基本的に重要な職業奉仕について勉強をして参りました。また会長も1月最終例会と2月の第1例会にて見識の深い会長挨拶をし、皆様方も既に深い見識をお持ちの事と考えます。そこで今日は私が最初の卓話の時約束した、我が八千代 RC の「職業奉仕の先生」と PG の鈴木憲輔先生の卓話原稿が見つかりましたので、この卓話原稿を使い、おそらく今年最後の研修会となるこの機会に、皆様と勉強したいと思います。

以下2部の卓話原稿となります。

(1)職業奉仕における「個人奉仕」の意義  
～個人は良心の座であり 創造性と責任感の源泉である～

(2)社会的責任の中心 としての職業奉仕  
～1993/12/15 第2790地区 第3回諮問委員会における卓話より～

今日は(2)の「社会的責任の中心としての職業奉仕」の原稿をコピーしてお手元に配布しました。尚(I)に興味のある人は事務局にお声がけ下さい。

「社会的責任の中心としての職業奉仕」  
ハストガバナー 鈴木憲輔氏による  
1993/12/15 第2790地区第3回諮問委員会における卓話より。

まず最初に私の職業奉仕というものに対する基本的な見解から申し上げますと、それは、「職業奉仕とはこの社会を作ることである。それは奉仕中の奉仕であり、私共の一切の奉仕の源泉でもある」ということあります。最近毎日のように新聞紙上に報道される政財界の不祥事件は私共の心を暗くし、国民としての誇りすら失い兼ねないものがあります。特にバブルの崩壊と共に露呈された最近の国民の沈滞した気分は終戦以来私共が、かつて経験しなかったもののように私には思われますが、皆様は如何でしょうか。私はこのような場合に最も大切なことは、やはり一度ものの本質に立ち還って深く考えてみるとことではないかと思います。

### ポール・ハリスの"This Rotarian Age"に見る当時のシカゴの状勢と職業と社会の関係

そのような気持ちから私は先日ポール・ハリスの"This Rotarian Age"を読みました。そこには19世紀末のシカゴにおける人心の廃穢が如実に描かれており、これに対してポール・ハリスは次のように述べております。

「それにも関わらず、シカゴには見逃してならない勢力があった。それは市民の胸に潜むシカゴ魂 "I will" の精神であった…心ある市民は文化的な聖なる戦いを待ち望んでいた。そしてこのような物情騒然たる都市シカゴこそはロータリー発生の絶好の地であったのである。」そして彼は1905年に同志三名と共にまず職業奉仕の団体としてロータリーを創設しました。職業が私共の生きるためのものであるということは当時も今も変わらぬ事実であります。しかし職業にはもっと本質的な意味がある。それはこの社会を作っているということです。それは丁度私共の細胞が体を作っているように職業はこの社会を作っているのです。ただ細胞と違う点、それは細胞には意識はありません、しかし人間には意識があります。そして社会を創造し、より高い価値を実現しようとする意欲をもっていることです。「最も奉仕する者は最も報いられる」というあのシェルドンの言葉はこの人間と社会との本質的な関係を最も簡潔に言い表しているように私には思われるのです。私共はこの世に生を受け、20余年近く学校に通いますが、その目的は何等かの職業につかんがためだと思います。そして職業を通じて社会の発展に尽くすということは人間として本来の使命であり、人間はこのためにこの世に生まれてきたと言っても決して過言ではありません。ポール・ハリスは上述の著書の中で社会奉仕のことを「人間最高の道楽」と申しておりますが道楽でない社会奉仕、それは職業をおいて外にはないのでしょうか。

### 職業奉仕か社会奉仕か、

#### 決議二三三四のできた意味

1910年代にロータリーではその目的について職業奉仕か社会奉仕かということで大論争が起こりました。そして1917年にはこの中の社会奉仕を主張する人々が分離独立をしております。皆様は決議二三三四というものを御存じだと思います。そして1923年にはこの反省からロータリーのありかたが一層はっきりとされることになりました。

この決議では…「クラブが一固まりになって行動するような活動よりも、広く総てのロータリアンの個々の力を動員するの方がよりロータリーの精神にかなっていると言える」と述べ、次いで「クラブにおける活動は会員に奉仕の訓練を施すための言わば研究室における実験としてのみこれを見るべきである」つまりロータリーにおける活動の目的は私共一人一人がこの社会に奉仕するという自覚を与えることであって、クラブとしての活動はそのための訓練、つまり一種の生涯教育のための学校(理想は松下村塾)のようなものだというのがこの決議の主旨ではないかと思います。そしてロータリーでは前者を一応「個人奉仕」、後者を「集団奉仕」と言っております。

### 集団主義の復活とその結果

ところが1978年になってR1会長レーフの時にロータリーには再び集団主義が復活されました。これについて彼の「多数の鉄砲より一つの大砲」という言葉は

有名です。そしてその考え方の下に御承知のポリオプラス運動が行われ、更に1987年には「職業奉仕に関する新方針」が発表されました。そしてこの新方針ではこれまで職業というものが専ら個人の責任において行われることが当然だとされてきたものが、ここでは集団化されたのであります。即ち新方針では

- ① 職業奉仕はこれからクラブと会員の共同責務となったと言い
- ② はクラブと会員の役割を定め、クラブは会員のためにプログラムを開発し、会員はそのプログラムに応えるとされております。しかしこの考えは、これまでの職業奉仕の考え方の下では明らかに種々の無理な点が考えられます。

例えばクラブと会員共同との責務と言っても会員が何等かの事業を行うために銀行から借入れをする場合、クラブでの保証というようなことは有りうるでしょうか。又例えば会員の中に一流の画家がおられたとした場合この会員のためにクラブでそのプログラムを作るというようなことが果たして可能でしょうか。しかしこのことは何も画家に限ったことではなく専門職の団体であるロータリーの総ての会員に当てはまります。そんな訳で同方針ではこれまでの職業奉仕というものの考えを根底から覆えざるを得なくなつたのであります。即ち綱領における「自らの職業を通じて」と言うロータリー創設以来の本旨をなくして、その代りに人様の職業のためのお手伝い例えば職業指導とか情報提供というようなものが職業奉仕であるということにしたのであります。しかしこのことは先の決議二三・三四でロータリーの精神と言われていた「個人奉仕」をなくしてその手段であった訓練つまり「集団奉仕」を逆にロータリーの目的にしたと言えると思います。しかし皆様はロータリーの綱領 (Object) をお読みになればお解りになるようにそこに書かれてあるものは総てが職業人として人生のありかた、つまり「個人奉仕」に関わるものであります。そして綱領の第2に述べられているロータリーの四大奉仕の一つである職業奉仕は決して他人の職業のためのものなどではなく自らのものであることは明白であります。職業は社会的責任であり、自分がこの世に生れてきたことを価値あるものにするからです。

私は今年10月長野市にある東山魁夷美術館を見て参りました。ここで私が最も感動したのは彼のこれまでの生涯の歩

みを収録した二本のビデオでした。私はこれにポール・ハリス以来ロータリーで言っている職業奉仕つまり個人奉仕というものの本質を見る事ができたのであります。そもそも職業というものは人間が二度とない自らの人生を賭けて行う創作ともいえるものです。そして私共一人一人の人間には社会に対する貢献の無限の可能性を秘めており、この価値の集積が即ちこの社会なのだと思います。そしてこのような人間存在の本質とも言うべきものを「職業奉仕」としてロータリー運動の中心にとらえたポール・ハリスの慧眼に私は今更ながら驚かざるを得ません。そしてロータリークラブが専門職の集団であるということの真の意義はロータリアンが自らの職業を通じてこの社会の創造に貢献することを前提としてのみ私共はこれを理解できるものであり、それは職業倫理を説くロータリーがロータリーであるための基本条件であると思います。職業奉仕こそはロータリーの生命である、私はどうしてもそう思ふざるを得ません。

## ポール・ハリスの根本思想と

### その現代的意義

私は甚だ僭越ではありますがここで自分の理解しているポール・ハリスの根本思想とその現代的意義について述べさせて頂きます。

①は彼の奉仕的人生観であります。人生は奉仕である、それが彼の思想の根本です。言い換えれば人間がこの世に生まれてきた目的は社会に奉仕しこの社会の創生に参与することにあるということです。

②は宗教、民族、人種、企業、職業、諸団体や国家、等を越えてという彼の共同体的な世界観とでも言るべき思想です。それは正しく人類としての永遠に変わることのない理想であると共に、それを可能ならしめるものとして彼は友愛の精神の至高性(絶対的な価値)を訴えています。

③は総ての人間における

### 良心の自由の尊重——

即ち寛容、思いやり、謙虚さ、友愛、礼節、それと共に眞実に近付かんとするポール・ハリス自らの行動に示されておる「実験的」な態度です。これは何よりも事実を重んずる近代科学を生んだ普遍妥当性を求める民主主義の精神そのものだと思います。そしてそれは社会のより

良き発展と総ての人間の真の心の幸せの基盤でもあると私は思っております。  
 ④に彼は、決して単なるコスモポリタンではないということです。例えば彼は三才の時より父母の下を離れ祖父母に育てられていますが、その時体験した自由で愛に溢れしかも軽い行き届いた家庭の素晴らしさや、苦難というものの人生における価値を高く評価し、しかも彼は自らがアメリカ人であることを誇りとする眞の爱国者でもありました。

以上の四つの点は "This Rotarian Age" や彼の二つの自叙伝をお読みになった方は皆お気付きのことだと思います。

以上のことと一口で申しますと、個といふものは常に全体における個として行動せよということになります。この全体は時に家庭であり、あるいは地域社会であり、又企業、職業、国家、国際社会、そして世界となります。しかしこれらの間で中心となる全体は大古の家族だけであった時代から農耕時代における部落などを経て現在の国家や国際社会という巨大な全体に発展してまいりました。しかしこれの時代においても個は良心の座でありそれが創造性と責任感の泉源であることに変りはなかったと思います。従って個を尊重せずして全体の発展はありません。しかし反対に全体を忘れた個のみの主張は、全体を衰滅せしめ結局個をも死滅への道を辿らしめます。要するに奉仕という個と全体との関係を基本軸とするロータリーの「奉仕の理想」の哲理は、この両者を調和せしめ、個に全体に対する使命感と生きがいを与えるものとして、企業や国家などの持続可能な発展を可能ならしめそれは世界平和の眞の根源でもあると私は思っております。

今日の 12/15 という日はウルグアイ・ラウンドにおいてわが国のコメ部分解放が採択される日であります。この世界協調の糸口となった記念すべき日に私が皆様方に卓話をさせて頂く光栄に浴したことは私としては誠に感慨無量でございます。

長時間にわたりご静聴を頂いたことに感謝し、今後における皆様の一層のご指導とご教示をお願い申し上げて拙い私の卓話を終わらせて頂きます。

※資本や土地や労働よりも、知識が主要な生産要素となった新しい時代における組織経営の基本は、命令やコントロールではなく、人々の責任感を中心とする創造性の展開にある

一ピーター・F・ドラッカー「二十一世紀の企業経営」

## 幹事 中村賢治

トルコ・シリア地震被災地への災害救援基金の托鉢は、32,000 円のご賛同を頂きました。ご協力ありがとうございました。

### ニコニコ BOX～

¥ 20,000-

☆飯生さんよろしくお願ひします☆

君塚・杉・石渡・日下部・風間・池田

☆皆さんにお世話になった父が、

明日 25 日で 20 回忌を迎えます。三井  
 ☆先週は卓話の担当委員会でしたが欠席しました。

三井会員有難うございました。市原  
 ☆ボーリオ基金まだ受付けていますので、

よろしくお願ひ致します。安宅

☆三寒四温早く暖かくなれ。植村

☆3/3例会休みます。安宅

☆遅刻しました。菊川・稻山・杉山

### ～友愛 BOX～

¥ 17,000-

☆3/2で 51 回目の結婚記念日です。ずいぶん長く一緒にいました。我ながら驚きです。渡邊

☆研修リーダーとしての最後の卓話をします。よろしくお願ひ致します。飯生

☆飯生研修リーダーよろしくお願ひします  
 中村・寺沢・鈴木・江頭・浅野正敏・朝戸  
 中島貞好・花島

☆久し振りに雨が降りそうです。宮野

	会員 総数	出席 対象者	出席者	%
2 / 24	5 3	4 6	3 8	82・61

3月のロータリーレート 1 ドル ¥ XXX-

### 近隣クラブ例会日

火曜日 四街道 R.C  
 火曜日 八千代中央 R.C  
 水曜日 習志野 R.C  
 水曜日 佐倉中央 R.C  
 木曜日 佐倉 R.C  
 木曜日 習志野中央 R.C

### 例会場

四街道ゴルフクラブ  
 ウィッシュトンホテル・ユーカリ  
 習志野商工会議所会館  
 第1ウィッシュトンホテル・ユーカリ第3夜間オフィネット  
 フランス料理 シエ・ムラ  
 習志野商工会議所会館

- クラブ広報委員会 委員長:田村隆治 副委員長:久土地剛
- 出席委員長 山浦恭宏 ※欠席の際は必ず火曜日迄に出席委員長に連絡して下さい
- 例会日 金曜日 12:30~13:30
- 例会場 パッソ・ノヴィータ (〒276-0049 八千代市緑が丘 1-1-1 公園都市プラザ 1F)